

同窓生の輪

星城二代 ～父から子へ～

【会社案内】

谷澤消防被服製造株式会社
昭和23年12月 初代 谷澤正保氏より
設立。現在は、幸次氏が二代目として
活躍中。消防服装用品一貫製造販売店、
各種消防用品取扱店として今日に至る。



子/谷澤寛幸 (星城高等学校 第28回生) 父/谷澤幸次 (星城高等学校 第2回生)

Q.星城高等学校の思い出をお聞かせ下さい。

(父) なんと言っても制服がカッコ良かった。紺色にサイドベンツ、当時としては斬新的でした。
先生方も自らが学校を、校風を培っていくのだという思いが強く、皆さん張りきってくれました。
(子) 韓国への修学旅行。いろいろなことができました。

Q.息子さんの高校進学時には何かアドバイスをされましたか。

(父) 中学校3年生の担任が、星城高等学校第4回生であったこと。公立の志望校は自分の好きな様を受験させ、私学の併願校は親の希望として星城を受験としました。

Q.星城高等学校へ進学が決まった時の心境をお聞かせください。

(父) 自分が在学当時お世話になった先生方が在職中でしたので、安心していました。
(子) 中学校はすぐ近くであったので、3年間電車で毎日通えるかが不安でした。

Q.時代とともに星城高等学校はどう変わったと思われますか。

(父) 長い歴史の中で男子部から男女共学・保育科・昼間定時制学科の発足・廃止、男子部・女子部の2学部生、今また男女共学、そして国立大学を目指す仰星コース、これにより文武共に力をいれ名実ともに県下に名前が知れ渡った私立高校に成長したと思います。
(子) グローバル化してきたと思います。

Q.今の星城高等学校をどう感じますか。

(父) 校内評価協議会を設置して学園の向上を目指し、45周年事業として新校舎の建設を進める等、飛躍を続ける学校をうれしく思います。
(子) 大学までできて、すごく良くなったと思います。

Q.これからの星城高等学校もしくは学園に期待するものは何ですか。

(父) 卒業生が愛着・感謝をもてる学校に。

地域貢献・人材育成の新たな連携

星城懇話会

学園が所有する教育力や知的財産、学園の施設、各界との繋がりなどを地域や会員の皆様にご利用、ご活用いただき、相互交流や連携を通して、共に発展していきたいと考えています。各種文化的行事の開催・講演会・企業研修・公開講座の開催、会員企業への施設貸与・就職説明会、学校行事とのタイアップ等、会員の皆様と学園との結びつき、会員メリットを焦点に事業を企画運営していきます。

※会員募集 お問い合わせ:星城懇話会事務局
(学校法人名古屋石田学園 法人本部内)

なるほど! 知っ得

内部進学・奨学制度

—学生・生徒を支援しています—

学校法人名古屋石田学園では、本学園に在籍する学生・生徒に対して、各種の奨学制度を設け、内部での進学、モチベーションの高い学生を支援いたします。また家庭での教育費負担にも配慮しています。

星城大学

■入学検定料の免除と入学金全額を奨学金として給付

①内部進学志望の星城高等学校の生徒で②推薦基準テストに合格し③星城高等学校長の推薦がある生徒④9月期志願者

■入学金の一部を奨学金として給付

①進学志望の星城高等学校の生徒で②推薦基準テストに合格し③星城高等学校長の推薦がある生徒

■入学検定料の免除

①推薦基準テスト受験者②星城高等学校長の推薦がある生徒

星城大学リハビリテーション学院

■入学検定料の免除と入学金の半額を奨学金として給付

①内部進学志望の星城高等学校の生徒で②推薦基準テストに合格し③星城高等学校長の推薦がある生徒

星城高等学校

■入学検定料の免除と入学金のうち5万円を奨学金として給付(入学金15万円)

星城中学校生徒

■入学金のうち10万円を奨学金として給付(入学金10万円)

星城高等学校卒業生・在校生の弟妹

星城中学校

■入学金のうち10万円を奨学金として給付(入学金10万円)

星城中学校の在校生の弟妹

星城中学校から星城高等学校へ進学した在校生・卒業生の弟妹

星城大学と星城大学リハビリテーション学院の併習者(ダブルスクール生)

■入学金を奨学金として給付、授業料の半額を奨学金として給付(大学在学中)

①星城大学の学生で②星城大学長の推薦があり③特別推薦入試に合格した学生

■入学金の半額を奨学金として給付

①星城大学の学生で②星城大学長の推薦があり③一般入試に合格した学生